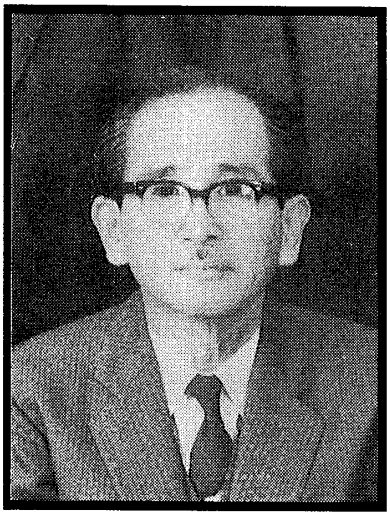
The Crop Science Society of Japan



故　玉井虎太郎　先生

The late Torataro TAMAI　Dr. Agr.

(1905～1989)

Honorary Member of the Shikoku Branch, the Crop Science Society of Japan, and Emeritus Professor of Ehime University

本支部名誉会員，愛媛大学名誉教授玉井虎太郎先生は，去る平成１年11月16日，松山赤十字病院で肺炎による呼吸不全のため84歳で逝去されました。ここにお知らせし，謹んで哀悼の意を表します。

先生は，大正14年台湾総督府高等農林学校を卒業され，同校実験指導嘱託としてご勤務ののち大学進学，昭和６年九州帝国大学農学部農学科を卒業されました。同大学で講師嘱託として勤務されたのち，同13年台北帝国大学附属農林専門部の教授に任じられ，同18年台湾総督府諸学校官制改正に伴い台湾総督府台中高等農林学校教授，同19年同台中農林専門学校教授となられ，終戦を迎えた後も，台湾政府の強い要請により残留され，台湾の農学教育と農業の発展にご尽力なさいました。昭和25年愛媛県立松山農科大学教授に迎えられ，同29年同大学の国立移管に伴い愛媛大学農学部教授となり，同45年の定年退官後もご自宅で研究を進めておられました。

先生は，畑作物の水分生理に関する学術研究に取り組まれ，数多くの研究論文を発表されましたが，特に学位論文として纏められた「畑作用水法の合理化に関する研究」は，作物水分生理学分野の研究開発に関する学術的価値の高い論文で，これにより昭和34年「日本農学賞」を受賞されました。

先生の研究は，土壌中の有効水分を作物の生長速度の視点から吟味され，灌水適期の算出式を提案されました。また，各種の自動灌水装置や記録装置を考案して各種作物の日消費水量を算定されました。これらの成果は，台湾の西部平野一帯の農業，サトウキビや野菜等の生産における畑地灌漑事業に活用され，また，瀬戸内地域の重要産業である柑橘類その他畑作物の灌漑施設設計上重要な基礎資料を提供する等，実際の農業に貢献しています。

先生は，また，品種改良も手掛けられ，育成されたウドンコ耐病性温室メロンは育種母材として高い評価を受け，また，香料用ゼラニウムB_1 No.10は実用的形質で優れた品種でありました。

このように多年にわたり教育研究に尽力した顕著なご功績により，先生は，昭和50年11月３日勲三等旭日中綬章を受賞されました。

先生は，本支部において長く評議員として会の運営に寄与されました。また，本学会においては編集専門委員として作物水分生理分野の論文校閲に貢献して来られました。

ここに，生前のご功績を偲び，心よりご冥福をお祈り申し上げる次第であります。

平成１年12月

日本作物学会四国支部

NII-Electronic Library Service